					177	: 44471	/A.T.
		等專門学校	開講年度 令和06	5年度 (2024年度)		業科目	倫理
	<u>.礎情報</u>	120022		NOT ()		60. / 5/6	
科目番号 授業形態		20023 講義		科目区分 単位の種別と	- 畄冶粉	一般 / 必修 履修単位:	
開設学科		一		対象学年	_毕1江奴	程修单位: 2	2
開設期	1	通年	XT-7-14	週時間数		2	
教科書/	 教材	『詳述 化	 倫理』(実教出版)、『グロ−	-バルワイド最新世界史	図表』(第	 5一学習社)	
担当教員	Į	宮下 祥-	子,佐々木 香織				
到達目	標						
2. 中国 4. 国科 5. 国科 5. 学 7.	国における哲 に思想の知識 解社会におお 学技術史と思 学・倫理学・ 留を通して得	学・倫理学の を得、その特 る宗教の在り 想との関係に 歴史・宗教に た知識を利用	D知識を得、考え方を理解するD知識を得、考え方を理解する時徴を理解する。D方を理解する。CDでで悪解する。CDででいて理解する。C関するがのでいて語句を正しく読解・表用しながら、あるできる。	記できる。			
	リック リック	200-3 Bills 12-	3.020.70 10.00 00.00				
<u>. </u>			理想的な到達レベルの目室	安(優) 標準的な到道	上でルのほ]安(良)	未到達レベルの目安(不可)
評価項目	 ∃1		哲学・倫理学の知識を得、	それを 折労・冷田労		•	哲学・倫理学に関する語句を正し
	,3,4,5,6,7		利用しながら自ら問いを立 を行うことができる。 哲学・倫理学について自ら	世界 識を得る。	哲学・倫理学についての正確な知識を得る。		く読解できない。それぞれの考え 方の意味が説明できない。
評価項目 項目1,2	≣2 ,3,4,5,6,8		質料収集し、その内容に 察したことを論理的に表現 できる	ついて考 哲学・倫理学	哲学・倫理学について調査したことを論理的に表現・表記できる		哲学・倫理学について調査したことを表現・表記できない
学科の	到達目標	項目との関	月 係				
本科学習	3目標 1 本科	学習目標 3					
教育方	法等						
既要		の仕組み	☆への幅広い視点を持ち、社会 ⇒、現代世界が形成された過程 その学習成果を論理的に記述し	を知る必要がある。そこ	こで本授業	では、哲学	その基盤となる人間の在り方や社会 ・倫理学の基礎的知識の習得を主眼
	≝め方・方法	事前事後 関連科目 MCC対応 修経験と	票を達成するため、随時、資料 後学習:休暇時にレポート課題 記さ: Ⅲ − C 社会、IV − B 技術者修 上創造的思考力 「法・評価基準」 記・前期末・後期中間・学年末	を与える。 ・Ⅱ _{倫理および技術史、Ⅶ 》}	凡用的技能	、VⅢ 態度	・志向性(人間力)、IX 総合的な
注意点		前期末:	中間試験成績(50%)、期末 前期中間(25%)、前期末(ミ試験成績(50%)			
テスト							
		修上の区分					T
□ アク	ティブラーニ	<u>ニング</u>	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業	対応		
							□ 実務経験のある教員による授
14444							□ 実務経験のある教員による授
授業計	画		□□□Ψ → □□		\m → \ L		
授業計	画	週	授業内容			の到達目標	
受業計	画	週	授業内容 現代の課題 – 哲学を学ぶ意義	;-	なぜ哲	学・倫理学	
受業計	·画	1週	現代の課題-哲学を学ぶ意義	<u>i – </u>	なぜ哲 つける 古代ギ	学・倫理学 かについて リシアのポ	・ を学ぶのか、思想を通じて何を身に 理解できる。 リス社会の特質と自然哲学の発祥に
授業計	·画			<u>;</u> –	なぜ担 つける 古代ギ ついて ポリス	学・倫理学かについて リシアのポークの知識を得している。	を学ぶのか、思想を通じて何を身に 理解できる。 リス社会の特質と自然哲学の発祥に る。 るペルシア戦争の影響とソクラテス
授業計		1週	現代の課題 – 哲学を学ぶ意義ポリス社会と自然哲学	<u>;</u> –	なぜ担っ つける 古代ギ ついて ポリス の哲学	学・倫理学 かについて リシアのポ の知識を得 社会におけ についての 論を中心に	を学ぶのか、思想を通じて何を身に 理解できる。 リス社会の特質と自然哲学の発祥に る。 るペルシア戦争の影響とソクラテス 知識を得る。
授業計	画 1stQ	1週 2週 3週	現代の課題 - 哲学を学ぶ意義 ポリス社会と自然哲学 ペルシャ戦争とアテネ	<u>; </u>	ながる さい ない ない だい だい だい がん がい アリガラ ディる アリスター アルス・アース アルス・アース アース・アース アース アース・アース アース アース・アース アース アース アース アース アース アース アース アース アース	学・倫理学かについて リシアのポ の知識を得 社会におけ についての 論を中心に トテレスの	を学ぶのか、思想を通じて何を身に理解できる。 リス社会の特質と自然哲学の発祥にる。 るペルシア戦争の影響とソクラテン知識を得る。 プラトンの思想的特質について知記
授業計		1週 2週 3週 4週	現代の課題 – 哲学を学ぶ意義ポリス社会と自然哲学ペルシャ戦争とアテネプラトンの哲学	<u>; </u>	なつ 古つ ポの イを アに アング	学・倫里学・倫里学かについている。 ・ 社会におけての知識を得いてのいまでのいる。 ・ たっしてのいてのいてのいてのいてのいてのいてのいてのいてのいてのいてのいた。	を学ぶのか、思想を通じて何を身に 理解できる。 リス社会の特質と自然哲学の発祥にる。 るペルシア戦争の影響とソクラテス 知識を得る。 プラトンの思想的特質について知記 目的論的自然観と、その思想的特質
		1週 2週 3週 4週 5週	現代の課題 - 哲学を学ぶ意義ポリス社会と自然哲学ペルシャ戦争とアテネプラトンの哲学アリストテレスの哲学	<u>i</u> –	なつ 古い ス学 デる ア ア で ア で の 欠 の か か か か か か か か か か か か か か か か か	学・倫里学・倫里学かについて がについてがいいの知識をはいいの知識を中心に 社会にいいので 論を中心に ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	を学ぶのか、思想を通じて何を身に理解できる。 リス社会の特質と自然哲学の発祥にる。 るペルシア戦争の影響とソクラテス知識を得る。 プラトンの思想的特質について知記
		1週 2週 3週 4週 5週 6週	現代の課題 - 哲学を学ぶ意義ポリス社会と自然哲学ペルシャ戦争とアテネプラトンの哲学アリストテレスの哲学ペレニズムの哲学	§	なつ 古つ ポの イを アに アて 自ら の の の の の の の の の の の の の の の の の の	学・倫里学・ がについて の知識をおけての 社会にいての 注についてに 論を中心にの いてのンドロの サであると 大でのといるを は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	を学ぶのか、思想を通じて何を身に理解できる。 リス社会の特質と自然哲学の発祥にる。 るペルシア戦争の影響とソクラテス知識を得る。 プラトンの思想的特質について知記目的論的自然観と、その思想的特質得る。
		1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	現代の課題 – 哲学を学ぶ意義 ポリス社会と自然哲学 ペルシャ戦争とアテネ プラトンの哲学 アリストテレスの哲学 ヘレニズムの哲学 復習・論述指導	§	なつ 古い ポロ イヤ アに アで 自 ユ キリエ キリスター アル カー マック ア カー カー カー カーカー カーカー カーカー カーカー カーカー カー	学・倫理学 リの知会にいいでは、 神に、 かに、 かに、 かに、 かに、 かに、 かに、 かに、 かに、 かに、 か	を学ぶのか、思想を通じて何を身に 理解できる。 リス社会の特質と自然哲学の発祥に る。 るペルシア戦争の影響とソクラテス 知識を得る。 プラトンの思想的特質について知記 目的論的自然観と、その思想的特質 得る。 の東征とヘレニズム期の哲学につい 的・論理的に表現する技術を学ぶ。 その特質についての知識を得る。 的特質とヨーロッパ世界における
		1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	現代の課題 - 哲学を学ぶ意義 ポリス社会と自然哲学 ペルシャ戦争とアテネ プラトンの哲学 アリストテレスの哲学 ヘレニズムの哲学 復習・論述指導 一神教の成立	<u></u>	なつ 古つ ポの イを アに アて 自 ユ キ大 イを ファン・クリ の ら ダ リに スティン・クリ の ち グ リに スティン・クリン・スティン・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・	学かに がに シリの 大に 神に かに シリカ かに シリカ かに かい がで がで がで がで がで がで がで がで がで がで	を学ぶのか、思想を通じて何を身に理解できる。 リス社会の特質と自然哲学の発祥にる。 るペルシア戦争の影響とソクラテス知識を得る。 プラトンの思想的特質について知証目的論的自然観と、その思想的特質得る。 の東征とヘレニズム期の哲学についての・論理的に表現する技術を学ぶ。その特質についての知識を得る。 的特質とヨーロッパ世界における技術を含る。 および信者の生活に浸透した教義のおよび信者の生活に浸透した教義の
	1stQ	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	現代の課題 - 哲学を学ぶ意義 ポリス社会と自然哲学 ペルシャ戦争とアテネ プラトンの哲学 アリストテレスの哲学 ヘレニズムの哲学 復習・論述指導 一神教の成立 キリスト教の拡大	§-	なつ 古つ ポの イを アに アて 自 ユ キ大 イ特 ガザは 代い リ哲 デ得 リつ レの ら ダ リに ス徴 ウタ して 入気 で りた スコラに スピック	学かにしています。 中にしています。 かにシ知知にいいでは、 かにシ知知にいいでは、 かにシの知いでは、 かにいいでは、 かにいいでは、 かにいいでは、 かいいのでは、 のいのでは、 のいでは、 のいでは、 のいでは、 のいでは、 のいのでは、 のいでは、 のいでは、 のいでは、 のいでは、 のいでは、 のいでは、 のいでは、 のいで	を学ぶのか、思想を通じて何を身に理解できる。 リス社会の特質と自然哲学の発祥にる。 るペルシア戦争の影響とソクラテス知識を得る。 プラトンの思想的特質について知証目的論的自然観と、その思想的特質得る。 の東征とヘレニズム期の哲学についての・論理的に表現する技術を学ぶ。その特質についての知識を得る。 的特質とヨーロッパ世界における技術を含る。 および信者の生活に浸透した教義のおよび信者の生活に浸透した教義の
		1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	現代の課題 - 哲学を学ぶ意義ポリス社会と自然哲学ペルシャ戦争とアテネプラトンの哲学アリストテレスの哲学ペレニズムの哲学復習・論述指導ー神教の成立キリスト教の拡大イスラム教の特徴	<u></u>	なつ 古つ ポの イを アに アて 自 ユ キ大 イ特 ガ成 古知 ぜけ 代い リ哲 デ得 リつ レの ら ダ リに 入徴 ウ立 代識 でした スプラン の ち ダ リに 入徴 ウシ のを	学かりの独立のでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	を学ぶのか、思想を通じて何を身に理解できる。 リス社会の特質と自然哲学の発祥にる。 るペルシア戦争の影響とソクラテラ知識を得る。 プラトンの思想的特質について知証目的論的自然観と、その思想的特質得る。 の東征とヘレニズム期の哲学についての知識を得る。 の東征とヘレニズム期の哲学についた的・論理的に表現する技術を学ぶ。その特質についての知識を得る。 的特質とヨーロッパ世界における対象のもよび信者の生活に浸透した教義にあるといるといると言を通じて、原始仏教の的教義についての知識を得る。 通じて日本の風土と伝統についての知識を得る。
<u>授業計</u>	1stQ	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	現代の課題 - 哲学を学ぶ意義 ポリス社会と自然哲学 ペルシャ戦争とアテネ プラトンの哲学 アリストテレスの哲学 ヘレニズムの哲学 復習・論述指導 一神教の成立 キリスト教の拡大 イスラム教の特徴 仏教の教義	€ -	なつ 古つ ポの イを アに アて 自 ユ キ大 イ特 ガ成 古知 聖とぜけ 代い リ哲 デ得 リつ レの ら ダ リに ス徴 ウ立 代識 徳仏が アンス ランス アンス アンス アンス アンス アンス アンス アンス アンス アンス ア	学かりの社に論。トてサ識・教トいーフマ仏信得子受・にシ知会のでは、テのンを察の教でしい。シの形のでは、アのンを察の教でしい。 かんにして、おりのでは、アのというのでは、アのをはのでは、アのを、アのを、アのを、アのを、アのを、アのを、アのを、アのを、アのを、アのを	を学ぶのか、思想を通じて何を身に理解できる。 リス社会の特質と自然哲学の発祥にる。 るペルシア戦争の影響とソクラテラ知識を得る。 プラトンの思想的特質について知証目的論的自然観と、その思想的特質得る。 の東征とヘレニズム期の哲学についての・論理的に表現する技術を学ぶ。その特質についての知識を得る。 的特質とヨーロッパ世界における対象のもよび信者の生活に浸透した教義のを得る。 ールタの生涯を通じて、原始仏教の的教義についての知識を得る。

16週			15週	前期復習	学習を通して得た知識や資料を活用してある問いに対して自ら考察し、その成果を客観的・論理的に表現・ 論述できる。
日間 日本			16週		
3개位 19 19 19 19 19 19 19 1			1週	中世キリスト教世界	ヨーロッパ中世におけるキリスト教会の強権とその思想についての知識を得る。
37dQ 4週			2週	ルネサンスの人間観と宗教改革	
3rdQ		2.10	3週	宗教改革	ルターおよびカルヴァンの宗教改革についての知識を 得る。
5週 デカルトと大陸合理論			4週	ベーコンとイギリス経験論	
(こついて知識を得る。		SraQ	5週	デカルトと大陸合理論	
投期 対プトの遺伝志志 知識を得る。 知識を得る。 フランス革命の進展とヘーゲルの歴史観についての知識を得る。 9週 復習・論述指導 自らの考察を客観的・論理的に表現する技術を学ぶ。 産業革命と功利主義 産業革命による社会の変遷とベンサムの功利主義について知識を得る。 11週 自由主義 ミルの質的功利主義と自由主義についての知識を得る。 12週 社会主義思想の成立 マルクスの社会主義思想についての知識を得る。 13週 社会主義の影響 ロシア革命、現在の社会主義国の現状など、社会主義が与えた歴史的影響についての知識を得る。 14週 実存主義哲学の潮流 20世紀の社会状況とキルケゴール、ニーチェなどの基本的な立場についての知識を得る。 学習を通して得た知識や資料を活用してある問いに対して自ら考察し、その成果を客観的・論理的に表現・論述できる。			6週	カントの自由論	『純粋理性批判』における自然因果律と自由との関係 について知識を得る。
後期 8년 八一ケルの歴史哲字 識を得る。			7週	カントの道徳思想	『実践理性批判』における自律としての自由について 知識を得る。
10週 産業革命と功利主義 産業革命による社会の変遷とベンサムの功利主義について知識を得る。 11週 自由主義 ミルの質的功利主義と自由主義についての知識を得る。 12週 社会主義思想の成立 マルクスの社会主義思想についての知識を得る。 13週 社会主義の影響 ロシア革命、現在の社会主義国の現状など、社会主義	後期		8週	ヘーゲルの歴史哲学	
10週 産業単いと切利主義			9週	復習・論述指導	自らの考察を客観的・論理的に表現する技術を学ぶ。
11回 自田主義			10週	産業革命と功利主義	
4thQ 13週 社会主義の影響 ロシア革命、現在の社会主義国の現状など、社会主義が与えた歴史的影響についての知識を得る。 14週 実存主義哲学の潮流 20世紀の社会状況とキルケゴール、ニーチェなどの基本的な立場についての知識を得る。 15週 後期復習 学習を通して得た知識や資料を活用してある問いに対して自ら考察し、その成果を客観的・論理的に表現・論述できる。			11週	自由主義	ミルの質的功利主義と自由主義についての知識を得る。
Tull (15)社会主義の影響が与えた歴史的影響についての知識を得る。14週実存主義哲学の潮流20世紀の社会状況とキルケゴール、ニーチェなどの基本的な立場についての知識を得る。15週後期復習学習を通して得た知識や資料を活用してある問いに対して自ら考察し、その成果を客観的・論理的に表現・論述できる。			12週	社会主義思想の成立	マルクスの社会主義思想についての知識を得る。
14週 夫仔主義哲子の潮流 本的な立場についての知識を得る。 学習を通して得た知識や資料を活用してある問いに対 15週 後期復習 して自ら考察し、その成果を客観的・論理的に表現・ 論述できる。		4thQ	13週	社会主義の影響	
15週 後期復習 して自ら考察し、その成果を客観的・論理的に表現・ 			14週	実存主義哲学の潮流	20世紀の社会状況とキルケゴール、ニーチェなどの基本的な立場についての知識を得る。
16週			15週	後期復習	して自ら考察し、その成果を客観的・論理的に表現・
			16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会 科学	社会	公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	2	
				自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主 義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを 説明できる。	2	
至%(2)710/5	工学基礎	(知的財産、 法令順守、 持続可能性	(知的財産、 法令順守、 持続可能性	技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を認識している。	3	
				科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。	3	
				科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与 した姿を通し、技術者の使命・重要性について説明できる。	3	
		技能 汎用的技能		他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で 正しい文章を記述できる。	2	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	2	
	汎用的技能			日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	2	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	2	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相 づち、繰り返し、ボディーランゲージなど)。	2	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	2	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	2	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	2	
分野横断的 能力				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に 収集することができる。	2	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	2	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要が あることを知っている。	2	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について 自己責任が発生することを知っている。	2	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	2	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	2	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	2	
				複数の情報を整理・構造化できる。	2	

				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析の ために効果的な図や表を用いることができる。	2	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなけ	2	
				ればならないことを知っている。 どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる	2	
				。 適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	2	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	2	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	2	
				一名	2	
				自らの考えで責任を持ってものごとに取り組むことができる。	2	
				目標の実現に向けて計画ができる。	2	
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	2	
				日常の生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	2	
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	2	
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	2	
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	2	
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	2	
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	2	
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	2	
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	2	
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内 での相談が必要であることを知っている	2	
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	2	
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	2	
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に 負っている責任を挙げることができる。	2	
				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	2	
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状で必要な学習や活動を考えることができる。	2	
		態度・志向 性	態度・志向 性	キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	2	
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	2	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどの ように活用・応用されるかを説明できる。	2	
				企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	2	
				企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	2	
				企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己 の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	2	
				企業には社会的責任があることを認識している。	2	
				企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	2	
				調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界 の抱える課題を説明できる。	2	
				企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要である ことを認識している。	2	
				社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	2	
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	2	
				技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	2	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	2	
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	2	
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	2	
	総合的な学 習経験と創	総合的な学 習経験と創	総合的な学 図経験と創	公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	2	
	資経験と剧 造的思考力	資経験と剧 造的思考力	習経験と創造的思考力	経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持 続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	2	
評価割合						
			試馬	合計 合計		

総合評価割合	100	100
基礎的能力	60	60
専門的能力	30	30
分野横断的能力	10	10